

行政視察報告書

令和6年 2月 14日

長浜市議会議長 中川 勇 様

長浜市議会議員 北川陽大



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和6年度 つなぐ長浜視察研修
2. 視察期間 令和6年2月13日(火)～2月14日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ①広島県福山市
常石ともに学園
 - ②兵庫県姫路市
JR太市駅の改築と駅周辺の町づくり
4. 調査内容感想等

■広島県福山 ◎視察目的

・全国初の公立学校としてのイエナプラン導入の『常石ともに学園』
その内容と、運営状況、子供たちの学習状況、また地域におこした影響

・視察内容
福山市 全国で初の公立学校としてのイエナプラン(学年をまたいだグループによる学級構成導入)した常石ともに学園。※私立では長野県佐久穂町で前例有り。この学習内容を教育委員会の担当者と学校長から学習。まず、イエナプランの特徴は異年齢のグループにしてクラスを編制したことが大きな特徴です。この導入に関して、福山市の教育長の力が非常に大きいことが研修で説明され

ました。誰一人取り残さない教育に向けて考えられ、学校長は導入のためにイエナプラン先進国のオランダに学習に行かれたそうです。大きく分けて1年～3年までに低学年をいったんまとめてシャッフルしたグループ。4年～6年までの高学年シャッフルして構成されたグループとになっています。そして、それぞれがお互いを尊重して、学びたいことを子どもたち自身に考えさせることを優先しています。

私の疑問点として、それぞれの基礎教育として学ばなければいけない、例えば基本的な国語や算数などはどのタイミングで学習するのかがありました。それについては国の学習指導要領に基づいて、それぞれの教師が常に校長や教育委員会と相談しながら進めておられるとのことでした。

現地を視察しましたが、子供たちの積極性が非常に目立ちました。

また、説明をしてくださった福山市の教育委員会の方や、校長先生にこのイエナプラン導入に関してのデメリットを質問。「現時点ではまったくデメリットはない」との明確な回答をいただきました。

誰一人取り残さない教育を目指す本市としても実験的に少数の学校でスタートできるのではないかと感じました。

また、イエナプラン導入したことで家族でこの福山市常石地区に移住されるかたもおられるとのことでした。地域の方々とのイベントなどもあり地域活性に役立っている側面も見えました。

■兵庫県姫路市 ◎視察目的

・JR 太市駅の改修と駅周辺の活性化方法の学習

視察内容

田園風景が広がる JR 姫新線の無人駅に太市駅。駅舎が老朽化し建て替えを模索していた地元の有志が声をかけ成し遂げた全国でも初の事例が駅の改修と地域活性に成功を収めている好例とされています。JR 姫新線の太市駅（兵庫県姫路市相野）は 2021 年秋、地元企業が駅直結の社屋を建設し、移転したのがきっかけとなりました。地元の自治会や企業、自治体、鉄道事業者が連携した駅の再生は「全国初」とのこと。地方交通のあり方が検討される中、生まれ変わった駅をまちづくりの核に位置づけた取り組みが長浜市の田村駅の再生をはじめとした南長浜の活性化に非常に参考になると感じました。

まず、この JR 太市駅は JR 田村駅と同じく、市街化調整区域に指定されています。また、駅舎が老朽化していることが課題に上がった際に、JR 西日本としては切符売り場だけを残すことを決め、駅舎が無くなることが決まりました。そこで、地元、太市地区のまちづくり協議会の自治会長をはじめとした方々が JR と地元の有力企業、関西陸運に声を掛けました。JR は駅舎だった土地の売却を決め、社屋の駅近移転を模索していた関西陸運に決定。関西陸運は旧駅舎の跡地に社屋と 1 階はカフェと産地直送の販売所を併設しました。

また、関西陸運が駅利用者のためにトイレを併設しました。行政は、まちづくり協議会と関西陸運の動きに乗り合わせる形で市街化調整区域に関して、カフェや物品販売ができるように計画地域を調整しました。

行政としては、旧駅舎時代に存在していた JA の建物がある土地を購入し、そちらを駅のロータリーとして改修。結果的に、1 億 5 千万円の負担で、実質的な商業施設の入った駅舎を手に入れることになりました。

旧駅舎時代は駅前に自販機だけだった太市駅が人の集う場所となっています。この事例で特筆すべきは行政主体ではなく、先にまちづくり協議会と関西陸運が JR と協議をすすめていたことです。行政はそれを実現させるために市街化調整区域の中で、商業施設を行えるように後押しをしています。

市が担当した駅前ロータリーの花壇はまちづくり協議会が担当しています。JR、民間企業、まちづくり協議会、行政の 4 社がタッグを組むというスクラム体制で JR 太市駅とその周辺改修への働きかけが成功しています。

当市の長浜市 JR 田村駅も市街化調整区域に囲まれた中に駅があります。また、太市駅より有利な点として大学や短大、高校が近隣にあり、駅利用者が太市駅の倍以上います。JR 側では自ら駅舎改築に応じる可能性が少ないことから、田村駅を始めとした南長浜地域の将来の計画がうまく進行していませんが、今回の事例は非常に参考になるものと考えます。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

福山市の常石とともに学園は少数生徒の学校であれば導入に向けてのハードルは低いと感じられます。教育現場に関わる方の熱意次第で実現可能と感じまし

たので、ぜひ、長浜市の教育委員会でも実験的な導入検討を行っていただきたい
と考えます。

また、当市の JR 田村駅に関しては、約 20 年現状からの脱却が出来ておらず地
元からの要望も長年続いています。長浜の活性化のため、今回の JR 太市駅の事
例は行政主体ではなく民間主体で動いた好例としても非常に参考になり、政策
デザイン課や都市計画課ともシェアを行いたいと思います。